

再評価結果（令和3年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・技術課

担当課長名：前佛 和秀

事業名	四国横断自動車道 阿南 <small>あなん</small> 四万十 <small>しまんじゅう</small> 線 阿南 <small>あなん</small> ～徳島東 <small>とくしまがし</small>		事業区分	高速自動車 国道	事業主体	国土交通省 四国地方整備局	
起終点	自：徳島県阿南市下大野町 至：徳島県徳島市北沖洲				延長	17.7km	
事業概要							
<p>四国横断自動車道は、阿南市を起点に、徳島市、高松市を経て四国中央市において四国縦貫自動車道と交差し、高知市、四万十市を経て大洲市に至る延長約 440km の高規格幹線道路である。この路線は、四国の東南地域、西南地域のミッシングリンク（高速ネットワーク空白地帯）を解消し「四国8の字ネットワーク」を形成することで、四国における信頼性の高い道路ネットワークの確保や地域格差の解消など、広域交流と地域の「安心」と「活力」を支える重要な路線である。</p> <p>阿南～徳島東間は、新直轄方式により整備される区間であり、徳島東南地域のミッシングリンク解消のために計画されている地域高規格道路「阿南安芸自動車道」と相まって、徳島東南地域の発展に重要な役割を果たすことが期待されている。</p>							
阿南～小松島：H15年度事業化 小松島～徳島東：H10年度事業化		阿南～小松島：H8年度都市計画決定 (H12、H18年度変更) 小松島～徳島東：H6年度都市計画決定 (H19年度変更)		阿南～小松島：H19年度用地着手 小松島～徳島東：H20年度用地着手		阿南～小松島：H19年度工事着手 小松島～徳島東：H27年度工事着手	
全体事業費		約1,791億円	事業進捗率		約62%	供用済延長	0.0km
		(令和2年3月末時点)					
計画交通量		16,600～23,000 台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	総費用 (残事業)/ (事業全体)		総便益 (残事業)/ (事業全体)		基準年 令和2年	
	(残事業)	581/1,819 億円 事業費：531/1,769 億円 維持管理費：49/ 49 億円		2,062/2,062 億円 走行時間短縮便益：1,756/1,756 億円 走行経費減少便益：234/ 234 億円 交通事故減少便益：72/ 72 億円			
感度分析の結果		<p>(事業全体) 交通量： B/C= 1.0～1.2 (交通量±10%) (残事業) B/C= 3.2～3.9 (交通量±10%) 事業費： B/C= 1.1～1.2 (事業費±10%) B/C= 3.3～3.9 (事業費±10%) 事業期間： B/C= 1.1～1.2 (事業期間±20%) B/C= 3.4～3.7 (事業期間±20%)</p>					
事業の効果等							
<p>① 円滑なモビリティの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。 ・現道等における混雑時旅行速度 20km/h 未満である区間の旅行速度の改善が見込まれる。 ・現道等に当該路線の整備による路線バスの利便性向上が見込まれる。 ・徳島阿波おどり空港へのアクセス向上が見込まれる。 <p>② 物流効率化の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徳島市から徳島小松島港（重要港湾）へのアクセス向上が見込まれる。 ・県南部における農林水産品（阿波尾鶏、生しいたけ、にんじん等）の流通の利便性向上が見込まれる。 <p>③ 国土・地域ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方拠点都市「徳島東部」～「なんごく・こうち」を連結する四国8の字ネットワークの一部を構成する。 ・日常活動圏中心都市間を最短時間で連結する路線を構成する。 <p>④ 個性ある地域の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・辰巳工業団地、大湊新浜工業団地、わじき工業団地、徳島県南部健康運動公園の利活用を支援する。 ・徳島県次世代LEDバレイ構想を支援する。 ・主要な観光地へのアクセス向上が期待される（うみがめ博物館、太龍寺ロープウェイ等）。 <p>⑤ 安全で安心できるくらしの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三次医療施設（徳島赤十字病院）へのアクセス向上が見込まれる。 <p>⑥ 安全な生活環境の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現道等における安全性の向上が期待される。 <p>⑦ 災害への備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次緊急輸送確保路線に指定されている現国道 11 号、55 号が通行止めになった場合の代替路線を形成する。 <p>⑧ 地球環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CO2 排出量の削減が見込まれる。 							

⑨ 生活環境の改善・保全

- ・ NOX 排出量の削減が見込まれる。
- ・ SPM 排出量の削減が見込まれる。

⑩ 他のプロジェクトとの関係

- ・ 徳島小松島港津田地区地域活性化計画と連携。
- ・ マリンピア沖洲整備計画と連携。

関係する地方公共団体等の意見

- ・ 徳島県、徳島市、小松島市、阿南市、阿南市高規格道路建設促進期成同盟会等より、本事業の整備促進について、積極的な要望活動が続けられている。
- ・ 徳島県知事の意見
「四国横断自動車道 阿南四万十線 阿南～徳島東」の事業を継続するという「対応方針（原案）」案については、異議ありません。「四国横断自動車道 阿南四万十線 阿南～徳島東」は、「四国8の字ネットワーク」を形成し、南海トラフ巨大地震を迎え撃つ「命の道」はもとより、経済・産業の発展、観光振興など、地方創生を実現する重要な社会資本であります。このため、引き続き、コスト縮減を図るとともに、県といたしましては、立江榑淵地域活性化インターチェンジの整備等に全力で取り組んで参りますので、「立江榑淵・阿南間」の先行供用はもとより、1日も早い全線供用をお願いします。

事業評価監視委員会の意見

- ・ 「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・ 平成 23 年 3 月 (主) 徳島環状線 川内町大松～平松 延長 1.3km 開通
- ・ 平成 23 年 4 月 桑野道路事業化
- ・ 平成 23 年 7 月 日和佐道路 延長 3.1km 2車線 開通
- ・ 平成 24 年 4 月 阿南安芸自動車道 福井道路 延長 9.6km 事業化
- ・ 平成 24 年 12 月 (主) 徳島環状線 川内町平松～住吉 延長 3.7km 開通
- ・ 平成 27 年 2 月 徳島南環状道路 上八万 IC～法花 IC 延長 1.9km 開通
- ・ 平成 27 年 3 月 徳島自動車道 鳴門 JCT～徳島 IC 延長 10.9km 開通
- ・ 平成 27 年 7 月 津田 IC(仮称) 連結許可
- ・ 令和元年 9 月 立江榑淵 IC(仮称) 連結許可
- ・ 令和 2 年 3 月 阿南道路 那賀川町中島～西路見町江川 延長 2.1km 4車線化完成

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・ 用地進捗率約 98%、事業進捗率約 62% (令和 2 年 3 月末時点)

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・ 阿南 IC(仮称)～小松島 IC(仮称)間は、トンネル工事等に着手しており早期開通に向け工事推進中。
- ・ 小松島 IC(仮称)～津田 IC(仮称)間は、用地買収推進中。
- ・ 津田 IC(仮称)～徳島東 IC(仮称)間は、橋梁工事等に着手しており、令和 2 年度開通予定。

施設の構造や工法の変更等

- ・ 今後も新技術、新工法の採用による工事コストの縮減に加えて、施設の長寿命化や維持管理費を考慮した構造の採用等、総コストの縮減に努めていくこととする。

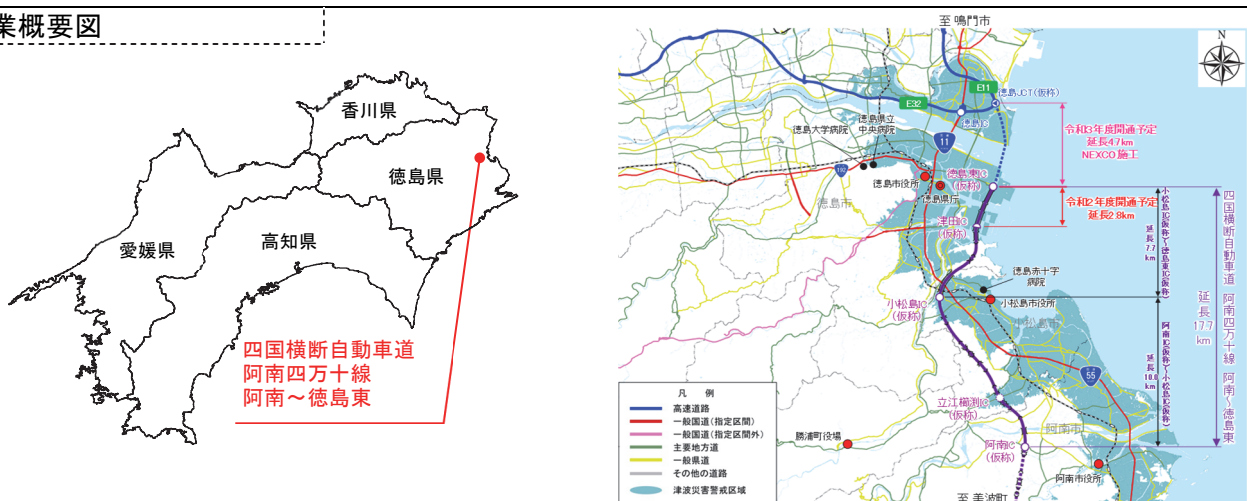
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・ 以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。